

## 全国学力・学習状況調査の結果について

- 調査期日：令和3年5月27日（木）
- 調査対象：小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査内容・1 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
- 2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### 調査結果の概要

#### 【小学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・ 聞くこと	<p>◇ 話の内容が明確になるように、スピーチの構成を事実と感想とを区別して話している工夫の説明として、適切なものを選択する設問では、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</p> <p>◆ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。</p>
書くこと	<p>◇ 自分の主張や考えを相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を捉える設問では、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</p> <p>◆ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。</p>
読むこと	<p>◇ 説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、条件に合わせて分かったことを文章にまとめる設問では、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</p> <p>◆ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることにおいて、全国平均を上回っているものの、正答率が37.9%と十分ではなく、今後の指導を要する。</p> <p>◆ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することにおいて、全国平均を上回っているものの、正答率が33.4%と十分ではなく、今後の指導を要する。</p>
言語について	<p>◇ 文中において、「は」や「が」の助詞を手がかりにして、主語と述語との関係を捉えることが概ねできている。</p> <p>◆ 語彙の習得が不十分であり、語句の音読みと訓読みによる違いや話し言葉と書き言葉の違いなどを理解することに課題がある。</p> <p>◆ 主語と述語が複数ある文では、主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割を理解することに課題がある。</p>

#### 今後に向けて

「読むこと」においては、単一の情報のみに基づくのではなく、目的に応じて文章と図表などの情報を関連付けて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成できるようにしたい。そのために、図表が含まれる資料を読む際には、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかに着目して文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約したり、必要な情報を見付けるために、文章と図を結び付けて読んだりすることができるように指導していく必要がある。

「言語についての知識・理解・技能」においては、毎回授業の中で辞書引きを取り入れたり、漢字学習の際に、音読みの漢字や訓読みの漢字を連想させたりして、語彙を増やすことができるようにする。また、文章の内容を理解する際に、初め・中・終わりなどの文章の構成と合わせ、主語と述語を確認する等の文の構成を学習する機会を意図的に設け、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を文や文章の中で正しく使うことができるようにする。

【中学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 質問の意図を捉えることにおいて、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 話合いの話題や方向を捉え、司会の役割について考えることに課題がある。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことにおいて、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li> <li>◇ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることにおいて、全国平均に比べ、正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くことに課題がある。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことにおいて、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 文脈の中における語句の意味を理解することに課題がある。</li> <li>◆ 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することに課題がある。</li> </ul>
言語について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 文脈に即して漢字を正しく読む問題(訓読み)においては、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 文脈に即して漢字を正しく読む問題(音読み・熟語)においては、全国平均に比べ正答率が低い傾向にある。</li> <li>◆ 相手や場に応じて敬語を適切に使う問題では、尊敬語と謙譲語のもつ働きや使い方の理解が不十分であり、全国平均を大きく下回っている。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「読むこと」においては、語句の意味を、文脈に即して捉える力を身に付けたい。そのために、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるように指導することが大切である。その際、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉え、その語句が文章の中で果たしている役割を考えるように指導をすることが有効である。また、指示する語句や接続する語句が、文章の中で果たしている役割などに注意するように指導することも有効である。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」の言葉遣いにおいては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要がある。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切である。</p>	

【小学校 算数】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断できる。</li> <li>◆ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題がある。</li> <li>◆ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題がある。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 三角形の面積の求め方について、底辺と高さの関係の理解に課題がある。</li> <li>◆ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることに課題がある。</li> <li>◆ 複数の図形を組み合わせてできた図形の面積の求め方について、必要な情報を見いだした上で、面積を求めることに課題がある。</li> </ul>
測定 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。</li> <li>◇ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。</li> <li>◆ 速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。</li> <li>◇ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断できる。</li> <li>◆ 帯グラフで表された複数のデータを比較し、特徴について説明することに課題がある。</li> <li>◆ データを二次元の表に分類整理することに課題がある。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「数と計算」においては、線分図を用いるなどして、場面から数量の関係を捉えることができるように指導を進めていくことが必要である。また、除法の計算では、商の四捨五入や余りの処理など、日常生活の場面に即してより適切な答えを考えることができるように指導することが大切である。</p> <p>「図形」においては、面積を求める上で、図形の構成する要素に着目して、必要情報を選び出し、筋道を立てて説明する機会を取り入れた授業を実践することが大切である。そこで、いろいろな向きに置かれた三角形・平行四辺形の面積を求めたり、斜辺の長さや対角線の長さまで提示されている図形の面積を考えたりして、説明する活動などが考えられる。また、図形の敷き詰め、変形など、操作的、感覚的な作業を取り入れた授業展開を進めていくことが大切である。</p> <p>「変化と関係」においては、二つの数量の関係の特徴を基に、日常生活に生かすことが大切である。単位量当たりの大きさの学習では、一つの量だけでは比較することができない事象に着目し、そのような量は、どのようにすると比べることができるかを考えたり、数値化することができるかを考えたりする活動が考えられる。さらに、目的に応じた処理の仕方を工夫することができるように指導していく必要がある。</p> <p>「データの活用」においては、複数のデータから項目間の違いに着目して、データの特徴や傾向を読み取れるようにすることが大切である。そこで、身近な題材を表やグラフにまとめたり、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、特徴や傾向を読み取る活動をしたりすることが考えられる。</p>	

【中学校 数学】

領域	結果の概要 (◇：成果 ◆：課題)
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できる。</li> <li>◆ 簡単な整式の加法、減法の計算をすることに課題がある。</li> <li>◆ 簡単な一元一次方程式を用いて考察することに課題がある。</li> <li>◆ 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解することに課題がある。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解することができる。</li> <li>◆ 平行四辺形になるための条件の理解について課題がある。</li> <li>◆ 平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明することに課題がある。</li> <li>◆ 証明の必要性と意味及びその方法について理解することに課題がある。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。</li> <li>◆ 関数の意味に対する理解が不十分で、「○○は△△の関数である」の○○と△△の関係を正しく表現することに課題がある。</li> <li>◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。</li> <li>◆ 与えられたデータから中央値を求めることに課題がある。特に、データの個数の違いによる求め方の違いを十分に理解できていない。</li> <li>◆ 分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを理解することに課題がある。</li> <li>◆ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。</li> </ul>

今後に向けて

「数と式」においては、正負の数の四則計算、特に減法を苦手としている生徒が多いという実態が明らかになった。正負の数の四則計算は、関数領域も含め、様々な学習で基本となってくる技能である。基本的な法則やルールを確認し、系統的に指導していくことが大切である。また、文字を用いた式での説明することにも課題が見られた。文字とは未知のもので、どのように使うべきか、どのようなメリットがあるかを理解できていない生徒も多い。そこで、最初は文字を用いらずに、実感しやすい数で数量関係を捉え、一般化をして文字を用いることで、規則や簡単に計算することができることに気付けるとい過程を示しながら指導していくことが大切である。

「図形」においては、平行四辺形や平行線の性質を用いて考察する場面で、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が多く見られた。証明問題では、「仮定」と「結論」を明確にして説明する過程を丁寧に確認し指導することが大切である。

「関数」においては、表やグラフ、文章から立式したり、式や表からグラフをかいたりすることに力を入れがちである。しかし、関数の意味をもう一度確認する必要がある。関数の意味を正しく理解することで、従属変数と独立変数を正しく捉えたり、具体的な事象を考察する場面で、考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明したりできるようになることにつながっていくと考えられる。

「資料の活用」においては、相対度数の求め方だけでなく、その必要性と意味を確実に押さえる必要がある。その他の代表値についても、求めることだけに焦点が行きがちである。それぞれの必要性と意味をきちんと押さえることで、目的に応じたデータの整理や分析ができたり、代表値や相対度数からデータの傾向を正しく読み取って説明したりできるようになっていくと考えられる。